

「施策」総括票

施策展開	3-(1)-ア	国際交流・物流拠点の核となる空港の整備	
施策	②離島空港の整備及び機能向上		153頁
対応する 主な課題	○宮古・八重山地域では、外国人観光客が増加傾向にあるが、各空港においてCIQ機能が十分でないなど、国際線受け入れのための体制整備が課題となっている。		
関係部等	土木建築部		

I 主な取組の推進状況(Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
1	新石垣空港の整備	3,095,919	順調	○新石垣空港において、滑走路、場周道路および駐車場等を整備し、新空港を供用開始した。また、石垣空港ターミナル(株)に補助金を交付し、国際線ターミナルビルとCIQ施設を整備した。(1、2) ○伊平屋空港建設が周囲の環境に与える影響を検討したが、航空会社を含めた関係機関との協議が遅れている。(3) ○粟国空港滑走路整備に必要な調査を行った。(4)
2	離島拠点空港の国際線受入体制の整備	175,871	順調	
3	伊平屋空港の整備	32,898	やや遅れ	
4	粟国空港の整備	6,457	順調	

II 成果指標の達成状況(Do)

(1) 成果指標

		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1		離島空港の年間旅客者数	313万人 (22年)	349万人 (24年)	381万人	36万人	—
	状況説明	八重山圏域に新石垣空港が開港したことで離島航空路線全体の旅客数は増加しており、また、伊平屋空港の整備により3万2千人、粟国空港の整備により1万5千人の旅客数の増加が見込まれることから、目標に向けて順調に推移していくと考えられる。					

様式2(施策)

		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
2		新石垣空港の年間旅客者数(国際線)	3.2万人 (22年)	—	5.6万人	—	—
	状況説明	今年度は、新石垣空港の開港を機に、運休していた路線の運航が再開するとともに、新規路線の定期化も見込まれていることから、目標に向けて順調に推移していくものと考えられる。					

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

III 内部要因の分析(Check)

- ・離島空港の旅客数を伸ばすためには、空港地上業務体制の確保や島の魅力の積極的なPRが必要であり、関係機関と連携を図る必要がある。
- ・宮古圏域の2空港の役割分担の決定に時間を要したため、CIQ施設の導入時期が遅れることが懸念される。
- ・粟国村は現在就航している機材(9人乗り)の大型化を要望しているため、国等の関係機関とも綿密に調整を図り、その結果を基本設計に反映させた上で、粟国空港整備の方向性を決定する必要がある。

IV 外部環境の分析(Check)

- ・宮古島市は沖縄観光コンベンションビューローや市の観光協会と連携し、韓国をはじめ近隣諸国のインバウンドに力を入れ始めており、宮古圏域においても外国人観光客が増えることが予想される。
- ・新石垣空港では、県や石垣市が積極的に行ってきた観光プロモーション活動が奏功したことで、想定以上の外国人観光客の利用となったため、観光客からはターミナル施設の狭隘さが指摘されており、その対応を検討する必要がある。
- ・伊平屋空港については、就航機材で施設の整備規模が決まるため、航空会社と協議し、整備規模を検討する必要がある。

V 施策の推進戦略案(Action)

- ・航空路線の誘致活動や観光PR事業を所管する文化観光スポーツ部及び離島路線を所管する企画部と連携を図るため、土木建築部に観光・交通施策連絡会議を設置する。
- ・宮古空港のCIQ施設導入について、宮古圏域の2空港の役割分担が平成24年度で決着したことから、早急に事業に着手し、地元関係機関や航空事業者、国機関と連携を図り、円滑に設計業務を遂行する。
- ・石垣空港ターミナルの増設については、県土木建築部、県文化観光スポーツ部、石垣市、ターミナル株式会社で構成する検討会議を設置し、適切な規模への増築に向けた検討、調査を行う。
- ・伊平屋空港への就航条件について関係機関と協議を行うとともに、修学旅行の誘致を行うなど、伊平屋村、伊是名村による積極的な航空需要の喚起を促進する。
- ・粟国空港の整備の方向性を決定するため、「粟国空港整備促進協議会」を開催し、地元の合意形成を図る。